



掃除に取り組む

朝夕の寒気が身にしみる時節となりました。例年ならば校庭の木々がだんだんと色づく季節ですが、急に寒くなったせいか例年よりも早く葉が散ってしまっているような感じがします。新型コロナウイルス感染症防止のため、様々な学校行事が制限されているところですが、緊急事態宣言も解除され、10月にはオープンスクールを開催することができました。保護者の皆様にはご多用の中ご参加くださり、誠にありがとうございました。子どもたちの学校生活の様子はいかがでしたでしょうか。保護者の方に参観いただき、張り切っていた子どもたちがたくさんいたように思います。多くの方に子どもたちの頑張りを見ていただくことができ、本当によかったと感じております。また、1～4年生は校外学習や社会見学に、6年生は修学旅行に行きました。子どもたちは、学校ではできない学びが経験でき、多くの思い出ができたことでしょう。特に6年生には、修学旅行を通じて得た学びを今後の学校生活に生かし、学校のリーダーとしてさらに活躍してくれることを期待します。なお、5年生は11日～13日に自然学校に行きます。

さて、子どもたちが日々取り組んでいる掃除についてお伝えします。掃除は三木小学校の生活目標4つの重点目標の一つです。教室や廊下などの掃き掃除や拭き掃除、コロナ対策の消毒作業、また外掃除では落ち葉集め等、子どもたちは分担して15分間取り組みます。年間では約50時間の時間数です。広い校舎や敷地内を分担しますので、高学年になると、一人で分担箇所を掃除する子どももいます。



熱心に掃除に取り組む子どもたちが多く、本当に感心します。さて、掃除の始まりは仏教や神道の修行に関係するのではないかとわれています。これには、「自分たちが生活する場所は、自分たちできれいにする」という意味合いが込められているそうです。2019年ラグビーワールドカップで試合後サポーターがごみ拾いを行い、その行動が称賛されたということがニュースでも取り上げられたことがありました。日本の学校にある掃除の時間は、日本文化の一つということができる習慣だそうです。また、掃除をすることで、「よく気がつき、謙虚になり、感謝の心が芽生える」といわれています。掃除が基本的な生活習慣の形成などの日常生活の実践に結びつく教育的効果をもっているだけでなく、自分の分担を掃除する責任感を身につけたり、子ども同士や教師と子どもとの触れ合いを深めたりすることができる時間、何より自分自身の心を磨くことができる時間であるといえるのではないかと考えています。



掃除の時間を通じて、三木小学校を美しい学校にするとともに、子どもたちの心がさらに豊かになるよう取組を続けてまいります。11月も変わらず、保護者・地域の皆様のご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

